

## Contents

- 巻頭言 第3次中長期計画  
「進化・深化」に向けた取り組み
- 特集 COVID-19 Pandemic  
私たち慈愛会の使命 vol.4
- NEWS/研修・活動発表会/トピックス  
在宅医療リレーエッセー  
慈愛会の達人たち/人事情報

## 第2回慈愛会学会学術集会 演題募集案内ポスター

### 優秀賞

公益財団法人 慈愛会

# 第2回 慈愛会学会学術集会

過去から学び、飛躍する慈愛会

**日時**  
令和4年7月9日(土)

**会場**  
川商ホール  
(鹿児島市民文化ホール) 第2ホール

**演題募集期間**  
令和3年11月15日(月)  
～令和4年2月28日(月)

**大会長**  
宇都宮 與  
(今村総合病院臨床研究センター長)

【事務局】  
公益財団法人慈愛会  
慈愛会学会運営委員会事務局(教育開発センター)  
TEL: 099-263-8151(内線2060) FAX: 099-263-8161  
E-mail: jgakka@jgakka.jp

作者 谷山病院 事務 加納彩貴

学会テーマである「過去から学び、飛躍する慈愛会を基に、過去＝慈愛会の歴史に関わる桜島、飛躍＝鳥をモチーフにデザインいたしました。

また「過去から学ぶ」ということから、前回のポスターにあるデザイン(桜島・噴火を表す六角形)を取り入れております。そして、慈愛会学会が7月開催のため、夏をイメージした爽やかな色合いに仕上げました。

鳥は慈愛会を、六角形は太陽の光や飛び立つ鳥の軌跡をイメージしております。この鳥の絵はパワーポイントの図形(ハートや月)を組み合わせてできており、この鳥のように慈愛会の全職員がひとつになって、羽ばたくことができるように願っております。

日本古来(過去)よりある伝統の文化、書道で「慈愛」の文字を表現しました。力強く、逞しい発展(飛躍)を願い、どっしりと貫禄のある書体となっています。令和4年は慈愛会が始まり88年目ということで、慈の中央部分を「88」に変換、また十の位の8の上半分で慈愛会ロゴマークを表現しました。右下は、人類の過去である「猿」の手が学びの象徴である万年筆を握っているイラストです。私たち医療従事者の思い、考え、努力が様々な角度で複雑に絡まり今まさに纏まりを持つようとしていることを表現し、「FUTURE」の文字を紛れ込ませています。

### 佳作

第2回 慈愛会学会学術集会

～過去から学び、飛躍する慈愛会～

開催日: 令和4年7月9日(土)  
演題募集期間: 令和3年11月15日(月)～令和4年2月28日(月)  
大会長: 宇都宮 與  
(今村総合病院臨床研究センター長)  
会場: 川商ホール(鹿児島市民文化ホール) 第2ホール  
お問い合わせ先: 慈愛会学会運営委員会事務局(教育開発センター)

作者 谷山病院 看護師 有木政

風に流れるように、時代に合わせて流れていくようなイメージで慈愛会のロゴを風船に見立ててみました。

### 佳作

第2回慈愛会学会学術集会

令和4年7月9日(土)

会場: 川商ホール(鹿児島市民文化ホール)第2ホール  
演題募集期間: 令和3年11月15日～令和4年2月28日  
大会長: 宇都宮 與(今村総合病院臨床研究センター長)  
お問い合わせ: 慈愛会学会運営委員会事務局(教育開発センター)

作者 いづろ今村病院 看護師 小迫宗平

## 第3次中長期計画 「進化・深化」に向けた取り組み

公益財団法人 慈愛会 理事長 今村 英仁



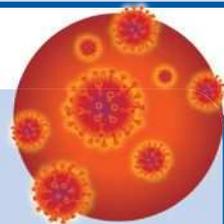
今年度の目標は、有事に遭遇してもびくともしない組織作りです。そのためには一人でも多くの慈愛会ファンを増やさなければならないと謳いました。一朝一夕に出来ることではありませんが当法人が培ってきた力を合わせれば十分に可能と考えています。その組織をさらに強固なものにするために来年度から新たな5カ年の中長期計画が始まります。テーマは「進化・深化」です。今回の新型コロナ禍では、病院や診療所、急性期や慢性期といった区別に関係なくご利用者（患者）の生活の場まで考えてサービスを提供しなければこれからの医療は成り立たないと述べてきました。一方で、強いストレスにさらされながら頑張っているスタッフの事を考えると理念にも掲げている「職員の物心両面の幸せ」について改めて深く考える必要性を感じています。ご利用者（患者）と職員の双方に目を向けることは今までも行ってはいますが、まだ大事な部分が欠けています。それが、“一人一人の”ご利用者（患者）と職員に目を向けるところです。

通信業界や物流業界で「ラスト1マイル」問題と言われる問題があります。最終接点で個々の顧客にサービスを届ける最後の1マイルに最も資源投入が必要でかつ難しい部分とされることを指します。医療でも同様なことが言えるのではないのでしょうか。標準的な治療方法がありますが、それを個々のご利用者（患者）に合わせてカスタマイズすることが最も時間がかかり困難な作業です。多職種協働のチーム医療が求められる現代ではさらに複雑になります。この作業を成功させるためには一人一人のご利用者（患者）のプロファイリングの仕組みが必要になります。この仕組み作りは「医療のラスト1マイル問題」と言えるのではないのでしょうか？

さて、同様な問題は規模が大きくなった当法人の人材管理でも感じています。第2次中長期計画の「統合」の下で事業所単位に加えて職種ごとのキャリアラダーの仕組みが構築されることで組織横断的な取り組みが始まりました。また、幹部候補生研修も、職種ごとはなく全職種一緒に行うところまでできました。確実に「統合」は進んでいます。さらに必要な事が“一人一人の”職員に目をかけてその職員の力を育て引き出しそれに報いる仕組み作りです。特に医療・介護・福祉・教育サービスは、今までの頭脳労働や肉体労働のカテゴリーに当てはまらない第3のカテゴリーとして提唱された「感情労働」の典型的な職種です。私たちスタッフがご利用者（患者）に提供するサービスはインターネット時代の最新技術のAIでも代替できないサービスと言われていています。それはこのサービスに「心」が必要だからです。この感情労働を提供するスタッフには、メンタルケアを超えた心を豊かにするケアが求められます。今年度、「心に届く慈愛の看護」の第2集を作っていただきましたが、同様な心に届く慈愛のサービスは全職種で行われています。それだけに慈愛会スタッフの皆さんにこの心を豊かにするケアを提供するのは私の役割であり責任です。一人一人の職員のケアを行うのに必要なのが一人一人の職員のプロファイリングの仕組みです。この仕組み作りは「慈愛会のラスト1マイル問題」と言えるかもしれません。

敢えてこの事を巻頭言で述べたのは、この「ラスト1マイル問題」がこれからの当法人の将来を左右する問題であると同時に最も困難な作業の一つだからであり、これからこの事に挑戦するとの宣言です。

どうかよろしく申し上げます。



## コロナ対応の現場から

今村総合病院 救急総合内科 主任部長 西垂水 和隆



新型コロナウイルス(武漢熱)感染症に関しては、疫学、感染対策、診療(検査や治療)、予防など多くのことに関わらせていただいたが、私にとっては全く未知の体験であった。

疫学的には日本(鹿児島)はやや流行が遅れた分、世界中の情報を先に得られた点は非常に助かった。世界中から様々な知見がほぼ同時に発表されたため、混同することも多かったが、臨床医や研究者の広く世界に発信する力をダイナミックに感じられた。

感染対策に関しても様々な報告がなされたが、派手なものだけがマスコミで報じられたこともあり、過剰な対策が進んでしまった。印象的だったのはマスクの重要性和、集団での感染対策が多くの疾病予防に有効だったことであり、コロナ禍では圧倒的に肺炎患者が減り、それだけでなく日本では総死亡数も減った。今後少なくともリスクのある患者などでは、マスクや手指衛生を守る習慣は維持すべきなのだろう。

診療については、これまで多くの感染症を経験してきたつもりであったが、このウイルスに関しては過去の知識や経験では全く歯が立たず、変異株だけでなく、個々の症例によってもパターンの異なる非常に厄介な相手であった。特に医療者自身が感染するかもしれないという状況での(当時医療者の死亡例も多く報告されていた)、発熱患者への対応は非常にストレスであったし、治療薬の決め手の無さも無念であった。インドでの大流行で恐ろしいと感じていたが、まさか大阪にまで医療崩壊が起これると思わなかった。病院関係者の多くは後めたさを感じていると思うが、これは明らかに医療者の怠慢と感じた。多くの国では超有名病院でさえコロナ病床に切り替えて対策し、医療崩壊を防いだ。自宅療養者で死者を出すなど、本当に日本の医療は情けなかった。医療関係者ということでもワクチンを先に打ってもらいながら、実に人ごのように対応していた。それでも医療者に感謝という声はたくさん上がった。当然感謝されるべき人も多くいたと思うが、私自身は非常に申し訳ない気持ちであった。

ワクチンでこれほど効果のあるものが早期にできるとは考えていなかったが、当初の予想よりもブレイクスルー感染が多かったことには落胆した。

ワクチンを開発前から確保し、速やかにワクチンを拡げてくれたことには感謝したい。

第5波まではほぼ同じことを繰り返していたが、今後は様々な分野でウイルスに対抗していこうという姿勢を感じる。多くの犠牲の上で培った知恵でこの冬を乗り切れるかどうかは課題である。それまで束の間の休息かもしれないが、GoToしておこう。



コロナ病棟内の一室。  
今村総合病院では、2020年7月4日(最初の入院受け入れ)から2021年10月末までにコロナ陽性患者149人の入院を受け入れた



写真奥が、コロナ病棟のスタッフエリア(グリーンゾーン)。大きなガラス窓を隔てた写真手前がレッドゾーン(病室サイド)

## 支援活動レポート

## クラスター発生病院での支援活動報告

奄美病院 副看護師長 平江 将樹



8月に鹿児島県看護協会からクラスター発生施設への派遣依頼があり、徳之島の病院に訪問させていただきました。業務内容は病院職員のメンタルヘルスでした。

派遣先は新型コロナウイルス感染症のクラスター発生10日が経過しており、災害級の危機と捉えると急性期であり、支援活動中も連日、陽性者を認め緊迫していました。現場は混乱しており、感染によって人員が不足し、外部からの支援も追いつかない状況でした。

新型コロナウイルス感染症の心理的ダメージの根幹は、自分が感染するのではないかという感染不安と、誰かに感染させてしまうのではないか、あるいはそれで迷惑をかけてしまうのではないかという罪責感情です。問題となるのは、そこで生じる抑うつ症状の強さです。

メンタルヘルス支援に入る重要性は、現場の声を聞くことにあると思います。私の役割は医療者の面接を行い、気持ちを語っていただくことでした。外部からの支援を受けるときには、受け入れる側にも緊張があります。しかし、第三者が応援に入ることによって気持ちを表出しやすい部分もみられていました。面接を実施していく中で、ほとんどの医療者が今後の見通しがもてず不安をもっており、通常より少ない人数で現場を回していることから疲労がピークに達している状態でした。そこで私は、現場の声を聞くことの他にストレス対処法を意図的に行うことを提案させていただきました。こうした普段から何気なく行っていることがストレス軽減につながることもあるからです。

今回は職場の協力をいただき、3日間の支援活動をさせていただきました。派遣先での学びも多く、セルフケア・ラインケアの大切さを再認識することができました。こうした取り組みを皆さんと共有して、一層よいものに発展させていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

# —有事に遭遇してもびくともしない法人を目指して— ポストコロナに向けてやるべきこと

コロナ後を見据えた地固めとして、まずは今年度中に進めなくてはならないことは何か。各病院施設において考察した「ポストコロナに向けてやるべきこと」をまとめて掲載します。

## 今村総合病院

### 集患対策

- i) 効率的で効果的な営業方法の検討
- ii) Webを利用した「地域連携のつどい」の開催
- iii) 鹿児島市外(垂水市等)への連携活動方法の検討
- iv) 感染対策も含めた安全な医療提供の広報

### DX (Digital Transformation) への取り組み

- i) Webを利用した業務改善
- ii) DXの利活用による業務改善・患者サービスの向上の検討

### 外来のあり方検討

- i) 外来機能報告制度に沿った将来の外来のあり方検討
- ii) AI (Artificial Intelligence) & I o T (Internet of Things) の導入も含めた患者の待ち時間を減らす取り組み検討
- iii) 業務改善による職員の業務負担軽減を検討
- iv) オンライン診療による患者満足度の向上

### 広報力の強化によるブランディングの確立検討

- i) 各診療科の強み・特徴を整理した上での情報発信の検討
- ii) 多様な広報ツールの検討

### 地域住民への啓もう活動

- i) コミュニティ誌への医療情報提供
- ii) Webでの市民公開講座開催
- iii) モニター会議開催
- iv) 新型コロナウイルスへの対応を含む感染症の知識普及活動の推進

### 患者サービスの向上

- i) オンライン面会等を含む、患者と家族との面会支援
- ii) 電話回線の効率的利用と業務改善
- iii) 電話予約のあり方検討

## いづろ今村病院

### 地域連携活動の再開

- ・病院、診療所との連携に向けた訪問活動の再開
- ・近隣病院・診療所等への新規連携先開拓
- ・介護事業所等への地域包括ケア病棟活用の啓発活動
- ・近隣町内会との共同活動の再開

### 迅速な情報発信に努める

- ・市中感染状況に応じた病院の体制や方針などの情報を、院内・ウェブサイトにより、迅速に発信

### 慢性疾患患者を長期フォローする体制

- ・クリニックに早めの入院、早めの退院という医療の提案
- ・当院の専門医とクリニック医師の顔の見える連携のための訪問活動
- ・いつでも受け入れられるような総合診療医体制整備

## 谷山病院

### 谷山グループ「内」の地域生活支援部門連絡会を開始

#### 【目的】

第3次マスタープランにおける1つの柱と考えている「地域生活支援」に関し、情報交換を行い院内各部署のより一層の連携強化を図る。

#### 【対象部署】

「就労支援センターステップ」「リハビリテーション」「デイケア」

#### 【内容】

当初は、各部署の①取り組み状況②利用者・利用予定者等について情報交換を行う。

#### 【開催頻度】

月1回

### 谷山グループ「外」愛結グループとの地域生活支援部門連絡会を開始

#### 【目的】

第3次マスタープランにおける1つの柱と考えている「地域生活支援相談」等に関し、両グループのテリトリー情報等について情報交換を行う。

#### 【対象部署】

谷山G「地域活動支援センターひだまり」・愛結G「居宅介護支援センター愛と結の街」

#### 【内容】

当初は①地域の課題②各部署の取り組み状況に関する情報交換を行う。

#### 【開催頻度】

月1回

## 奄美病院

## オンライン等での診療・診療支援体制の整備

当院は、喜界島での精神科医療も担っている。次なるコロナ感染拡大に加え、台風ほか荒天時でもオンライン等により、対面方式に近い診療、診療支援が行えるようハード面、ソフト面の整備を喜界町とも協力しながらすすめていく。

## 面会制限の最小化

精神科での治療は長期にわたることが多い。その中で患者ご家族をつなぐ「面会」は重要である。どのような状況下でも、ご病気の方々の心が安らぐ癒しの場を提供するため、対面に近いかたちで「面会」が実現できるよう、環境整備、院内ルールのバージョンアップを図っていく。

## 在宅部門の充実

コロナ禍では、通院、通所の機会が減少した。その中でも利用者やご家族が地域で安心して生活できるよう、「訪問看護ステーションイルカ」「指定障害福祉サービス事業所あらいぐま」「グループホームひまわり」「相談支援事業所あゆみ」の更なる充実を図っていく。

## 徳之島病院

## オンライン面会の実施

- ・面会制限の状況下においても、患者さんとご家族が繋がりにくくても安心感を得るため、病院でiPadを購入し、「LINEアプリ」を利用したビデオ通話を可能とする。
- ・案内文や病院ウェブサイトにてQRコードを掲示し、周知を図る。

## 有事における離島訪問看護の継続

- ・島内にてコロナ陽性が確認された場合等、行政からの中止要請がない限り継続した離島訪問看護を行う。
- ・看護部だけでなく、多職種連携システムを構築する。

## BCP(災害時事業継続計画)の策定

- ・当院が甚大な被害を受ける可能性の高い危機事象全体を想定したBCPを策定し、災害レベル別の対応の中で、新型コロナウイルスを始めとした感染管理について盛り込む。

## 愛と結の街

## 施設利用者獲得・利用率アップの為の営業活動の開始、強化

## 【目的】

現在稼働している愛と結の街グループのデイケア部門、デイサービス、本年5月開設の住宅型有料老人ホームの更なる利用率アップ、入居者の安定的確保のための営業活動を開始する。

## 【対象部署】

「老健 愛と結の街」「デイサービスはなぶさ」「住宅型有料老人ホームあいゆいの家」

## 【内容】

上記目的のための法人内外の病院・施設に向けた営業活動

## 【開催頻度】

必要に応じ随時

## 認知症カフェの再開、取組内容の再構築

## 【目的】

コロナ禍で一時中断していた認知症カフェを再開し、地域の認知症の方々やご家族のみならず介護サービスを必要とする方々へ愛と結の街グループが提供する各種介護サービスについて知っていただく機会とする。

## 【対象部署】

「老健 愛と結の街」「デイサービスセンターあしたの風」

## 【内容】

認知症の方々、ご家族、地域の皆様を対象として、認知症への理解・啓蒙、交流の場を提供する。今後は認知症だけでなく、介護相談やリハビリの体験等も出来る機会としていく予定。

## 【開催頻度】

月1回

## 谷山病院グループとの地域生活支援部門連絡会を開始(合同施策)

## 【目的】

第3次マスタープランにおける1つの柱と考えている「地域生活支援相談」等に関し、両グループのテリトリー情報等について情報交換を行う。

## 【対象部署】

谷山G「地域活動支援センターひだまり」・愛結G「居宅介護支援センター愛と結の街」

## 【内容】

当初は①地域の課題②各部署の取り組み状況に関する情報交換を行う。

## 【開催頻度】

月1回

## 鹿児島中央看護専門学校

## オンライン授業体制の整備

学校側のWi-Fi環境等ハード面の整備はほぼ完了している。ICT教育実践に向けた教育力向上のための学習会、研究授業へ取り組み、コロナ禍においても学生の学びを継続できる体制を整える。

## シミュレーション教育の体制構築

臨地実習が学内実習となった場合においても、臨床現場と協働しシミュレーション教育が可能となるよう体制を整える。

## コロナ・災害に向けたBCPの策定

安全管理委員会を発足し、コロナ感染症や火災等、事例ごとに作成してあるマニュアルを統合し有事に備えた事業継続計画を整える。

# 第2回慈愛会学会学術集会

2022年  
7月9日  
開催

## 学術集会テーマ 『過去から学び、飛躍する慈愛会』

大会長 宇都宮 與

公益財団法人慈愛会 今村総合病院 名誉院長兼臨床研究センター長

第1回慈愛会学会学術集会がコロナ禍の困難な中で、理事長先生の強いリーダーシップのもと「～逆境に強い体力のある組織づくり～」のテーマで自治会館会場とオンラインのハイブリッドで開催されました。慈愛会にこれほどまでの潜在能力があるのかと思わんばかりの多くの素晴らしい発表がなされました。立ち上げに続く第2回は令和4年7月9日(土)に川商ホール(鹿児島市民文化ホール)での開催が決まりました。学術集会のテーマ「過去から学び、飛躍する慈愛会」と学術集会の広報ポスターも決まりました。広報ポスターは学術集会のテーマを基に桜島から鳥が太陽に向かって羽ばたく構図で慈愛会の飛躍をイメージしています。慈愛会創設88周年にあたる第2回学術集会は、慈愛会の歴史から学び、安心・安全で高度な医療提供をモットーに地域に貢献する法人となることを目指して開催できればと願っています。慈愛会の多くの施設と様々な職種から多数の発表がなされ、スタッフ全員で過去を振り返り、現状を理解し、さらに学術集会を通して慈愛会が未来に向かって飛躍するきっかけとなることを期待します。皆様のご参加とご協力を切にお願い致します。

## 演題募集

登録期間 2022.2.28まで

### 演題登録基準(抜粋)

#### ◆登録資格

演題発表者(筆頭研究者)および共同研究者は、公益財団法人慈愛会の職員に限る。ただし、運営委員会が特に認めた場合はこの限りではない。

#### ◆発表内容

カテゴリーは次の7つとする。

- (1)医療・福祉の質…専門医療 高齢者ケア チーム医療 感染管理 褥瘡対策 など
- (2)地域医療…在宅医療 訪問看護 地域連携 など
- (3)医療安全…安全対策 転倒転落 急変時の対応 インシデント分析 など

- (4)医療経済…診療報酬 組織運営 病院経営 コスト管理 医療情報 など
- (5)人材育成…職員の教育 クリニカルリーダー スペシャリスト育成 など
- (6)働き方改革…業務改善 組織体制 超過勤務対策 QC活動 など
- (7)その他…医療マネジメントに関すること

- ・「演題登録 申込用紙」に必要事項記入の上、原稿とともに運営委員会 [jgakkai@jiaikai.jp](mailto:jgakkai@jiaikai.jp) にメール送付する。
- ・抄録原稿は「抄録作成要項」に従い記載する。
- ・採否結果はメールで通知する。
- ・学術集会発表後、選出された演題を原著論文として「かごしま慈愛会ジャーナル」に掲載する。

問い合わせ先 慈愛会学会運営委員会事務局(教育開発センター内)内線2060 直通099-263-8151

## 委員紹介

第2回慈愛会学会に向けて、慈愛会学会運営委員、かごしま慈愛会ジャーナル編集委員の方々をご紹介します。

次世代を担う若きリーダーであり自らのキャリアアップの機会とします。

法人全体に広く学会について発信周知するとともに、現場からの意見を積極的に反映します。皆さんと力合わせ、心合わせて活気ある法人全体の学会となるよう努めてまいりますので宜しくお願いいたします。

### 慈愛会学会運営委員会

委員長	木佐貫 涼子	教育開発センター長
委員	宇都宮 與	次期大会長 今村総合病院名誉院長兼臨床研究センター長
委員	常盤 光弘	今村総合病院副院長兼いづろ今村病院副院長兼急性期病院統括副院長
委員	有島 尚亮	急性期病院統括事務長兼今村総合病院事務長
委員	大内田 頼春	谷山病院事務長
委員	中谷 明実	今村総合病院副看護部長
委員	上原 奈津美	いづろ今村病院副看護部長
委員	中村 美千代	奄美病院副看護部長
委員	脇田 慎一	いづろ今村病院画像診断科技師長
委員	村田 耕一	今村総合病院リハビリテーション部科長
委員	吉元 初美	徳之島病院看護師長
委員	松山 淳史	今村総合病院薬局長代理

### かごしま慈愛会ジャーナル編集委員会

委員長	上之園 芳一	今村総合病院副院長
副委員長	秋 廣 定也	いづろ今村病院事務長
委員	鈴木 大輔	今村総合病院総務課長
委員	永迫 智子	谷山病院副看護部長
委員	川崎 友義	愛と結の街介護福祉士長
委員	武清 孝弘	今村総合病院リハビリテーション部副主任
委員	池田 貴美子	教育開発センター長補佐



加納さん(左)への表彰状授与

## ポスター 優秀作品決定 (表紙参照)

来年度の慈愛会学会ポスターが決定いたしました。今年度は5名の方から10作品の応募があり、優秀賞に谷山病院 事務 加納彩貴さん、佳作に谷山病院 看護師 有木攻さんと、いづろ今村病院 看護師 小迫宗平さんの作品が選ばれました。

表彰式は理事長、大会長のご出席のもと11月10日に行いました。「テーマから創造し作品を楽しく作り上げました。また今後も応募します」という受賞者の意欲的な感想があり、学会運営するものとして大変有難く思いました。ご応募いただきました作品すべて素晴らしいものでした。作品応募してくださった皆様に深く感謝申し上げます。

今後は法人内各施設にポスターを掲示して、学会準備を進めてまいります。多くの皆様の学会参加や演題応募へのご協力よろしくお願いたします。

慈愛会学会運営委員会 委員長 木佐貫 涼子



前列左から小迫さん、有木さん、今村理事長、加納さん、宇都宮名誉院長兼臨床研究センター長、後列は学会運営委員(左から有島事務長、木佐貫委員長、松山薬局長代理)

## 院長交代について

高麗町クリニック開設時より院長を務められた下本地優医師が慈愛会を退職され、新院長に斧淵泰裕医師が就任しました。一言ご挨拶をいただきます。



高麗町クリニック 院長 斧淵 泰裕

令和3年4月1日、高麗町クリニックへ入職致しました。

10月1日より、院長を拝命しております。

これまで培ってきた総合診療医の経験を活かしたいと考えております。

**略歴**

医療法人アスカ 理事長  
薩摩郡医師会 理事  
自治医科大学消化器内科シニアレジデント  
瀬戸内町立へき地診療所長  
上屋久町立永田診療所長

## 今村総合病院産科Information

### 慈愛会職員・親族向け出産祝金 新制度スタート

当院で出産された慈愛会職員・親族（3親等以内）にお祝い金を支給いたします。

**支給範囲・金額**

① 慈愛会職員およびその配偶者

職員本人が出産…**80,000**円   
(従来のお祝い金 30,000円 + 50,000円)

職員の妻が出産…**60,000**円   
(従来のお祝い金 10,000円 + 50,000円)

② 慈愛会職員の3親等以内の親族の出産

**50,000**円 

制度利用が想定される3親等以内の対象…兄弟姉妹、子供、孫、姪甥、父母、伯叔父母

ご出産予定のご家族、ご親族がいらっしゃる職員の方は、この機会にぜひ当院の産科をご利用ください。

正常分娩に加え、基礎疾患のある患者さまも受け入れております。

妊婦さんのご希望に寄り添いつつ、総合病院ならではの医療体制を活かしながら安心・安全な医療を提供します。

入院時のお部屋は完全個室（個室料金無料）。回りを気にすることなく赤ちゃんと一緒にリラックスして過ごすことができます。



**転院 里帰り 大歓迎!!**

今村総合病院 \*ダイヤルイン  
099-253-9930 産科・婦人科外来 内線 2550

今村総合病院 産科婦人科 公式Instagram



公式 Instagram 始めました♪  
フォロー・いいね!  
をお待ちしております。

## 研修報告

# 慈愛会の未来を考える＜ミドルマネジメント研修＞

教育開発センター長 木佐貫 涼子

2021年10月2日(土)、115名が集い、自治会館2会場と奄美病院、徳之島病院をネットワークでつなぎ、第2回ミドルマネジメント研修を開催いたしました。

昨年からはまった本研修の目的は「管理者としてのマネジメントとリーダーシップを図るための中間管理者の育成」です。今年度は昨年度学んだ組織分析、目標管理を発展させ、来年度から始まる第3次マスタープランへ活かしていくこと、昨年度の学びを活用していくことを意図としました。まず、今村理事長に「第3次マスタープランと慈愛会組織におけるミドルマネジャーとしてのリーダーへの期待」のテーマで、「進化・深化」の意味、マネジメントの対象として人・モノ・カネ・データ+感情労働者である心についてゼロベース思考でマネジメントすることの重要性、第2次マスタープランを振り返り、その上で課題の明確化と具体的な戦略戦術を立て取り組むことについてお話いただき、リーダーとして認識を新たにしました。

続いて昨年度の研修のポイント(組織分析、特に外部環境のとらえ方)を押さえ、8名の多職種代表による各専門分野の将来展望について話していただき、情報を共有して、組織分析を行い、今後取り組むべき課題をグループワーク(GW)で検討しました。これまで多職種リーダーの将来展望を聴く機会が少なく、8名のプレゼンやGWは多職種理解につながり、多職種リーダーで慈愛会の未来について考える機会となりました。大変短いGW時間でしたが、GWの主旨が伝わらず満足感が低いという意見もありましたが、多職種で同じ目標に向かってGWする楽しさや多職種協働に繋がれるといった感想も多くありました。自施設で今回のGWを引き続き議論しながら第3次マスタープランにつなげられればと思います。

午後からはチャレンジプラン(目標管理)の考え方や人事考課について演習を交えて学び、目標管理と能力目標についてはそれぞれの意味について理解しました。目標管理によって職員自らが目標を持ち達成していく喜びややりがいにつながるよう管理者として支援していくことが重要となることが実感できました。慈愛会管理者の一体感があつた等、研修の学び以外の感想も多く寄せられました。一方でリモート研修の音声に関する問題、研修企画(時間不足や目標不明瞭など)に関するご意見もあり、今後の研修企画に活かしてまいります。

講師やファシリテーター、資料の準備や取りまとめ、会場設営等ご協力ご支援いただきましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。



自治会館第1会場



自治会館第2会場でのGWの様子



奄美病院

徳之島病院

登壇した講師、ほか各職種発表者の皆さん



今村 英仁 理事長



木佐貫 涼子  
教育開発センター長



徳久 銀治郎  
本部総務人事部長



中園 明子  
谷山病院看護部長兼精神科病院看護課課長



秋廣 定也  
いづろ今村病院事務長



神門 孝典  
いづろ今村病院薬局長



浜田 香穂麗  
今村総合病院リハビリテーション室長



恵 智徳  
今村総合病院診療放射線部統括技師長



越智 秀美  
今村総合病院臨床工学部科長



中園 智美  
いづろ今村病院栄養管理科長



中谷 明実  
今村総合病院副看護部長



川崎 友義  
愛と結の街介護福祉士長



内田 良慶  
本部経営企画室長



有島 尚亮  
急性期病院統括事務長兼今村総合病院事務長

## 第10回慈愛会精神科リハビリテーション合同活動発表会

谷山病院 作業療法士 迎 雄作

2021年10月16日(土)に谷山病院にて開催致しました。蔓延防止等重点措置が解除され、感染対策に留意した上で対面開催が実現できました。

今村英仁理事長の挨拶から始まり、第1セッション(3題)では、症例報告を中心とした発表、第2セッション(3題)では、ケースを取り巻く治療環境の向上に向けた支援の発表がありました。質疑応答も活発に行われ、各スタッフが意見を交換しました。

今回は第10回記念として、精神科各施設から精神科作業療法の魅力を伝える企画もありました。それぞれが工夫を凝らし、作業療法の魅力やプログラム内容についてユニークに動画を作成して発表しました。会場は終始笑顔に包まれ、改めて精神科作業療法の温かさ、幅広さを実感することができました。

また、特別企画として、慈愛会リハビリテーション部村山芳博顧問(慈愛会リハビリテーション部統括室長を定年により退任、9月より顧問に就任)へ、これまでの多大な功績と長年のご功勞に対し、感謝の意を込めて歌のサプライズ企画も用意しました。

最後は村山芳博顧問の総括で締めくくりました。今後も精神科作業療法の温かさを治療に活かしながら、離島を含めた人事交流を増やし、スタッフのスキル向上を目指していきたいと思ひます。



## 第9回慈愛会臨床検査部合同研修会

今村総合病院 臨床検査技師 藤山 裕輝

2021年11月6日(土)に今村総合病院をメイン会場として開催しました。コロナ禍での開催ということで、WEBとのハイブリッド開催とし、さらに今村総合病院内を3会場に分けて感染対策に配慮しました。今村総合・いづろ今村・谷山の各病院スタッフと今村英仁理事長、本部職員、計38名が参加しました。

一般演題は4演題あり、日頃の業務紹介や実績、迅速で正確な検査を臨床に返すための業務改善への取り組みなど、専門性の高い発表がなされました。同じ臨床検査技師であっても検体部門・生理検査部門・病理部門と業務が分かれている為、今回の発表を通して他部門の業務を互いによく知ることが出来たと思ひます。

鹿児島県赤十字血液センターの宮下幸一郎先生の特別講演「輸血検査の症例」は、日頃輸血検査に携わらないスタッフにも分かりやすく、臨床に沿った内容でしたので今後の業務への参考になりました。

最後に今村理事長と今村総合病院臨床検査部 坂江清弘部長の講評・総括をいただき、研修会は成功裏に終了しました。

今後はこのような研究発表を臨床検査技師会や他学会などで発表し、慈愛会の臨床検査部をアピールできるようにしていきたいです。また、初めての開催方式で通信や音響の不具合から進行が少し滞ったのが反省点でした。今後WEB利用の機会が増えると考えられるので、スムーズな開催が出来るよう努めたいと思ひます。



## 第11回慈愛会薬剤部合同研修会

慈愛会統括薬剤部長 山口 辰哉



2021年11月20日(土)に今村総合病院をメイン会場として開催しました。今年も昨年と同様に、コロナの影響で、メイン会場とWEBとのハイブリッド開催となりましたが、今村英仁理事長もご参加いただき、法人内5病院薬剤部職員含め55名の参加がありました。今回は、今村総合病院で研修をしている4名の調剤薬局の先生にも参加していただきました。

はじめに、慈愛会薬剤部統括部長より「鹿児島大学病院の病棟業務で経験した症例報告」の演題にて講演致しました。引き続き各病院薬剤部から8演題の研究発表があり、他院での取り組みや症例発表に対して活発な質疑応答が行われました。今回で11年目を迎え、発表内容も年々充実したものになってきております。これまで本研修会での演題が病院薬剤師会学術大会にて優秀発表賞を受賞するなど、本研修会は慈愛会薬剤師の学術的視野を広げる重要な位置づけとなっています。最後に今村英仁理事長より講評・総括をいただき、研修会は成功裏に終了いたしました。

今後は各病院が連携し、スキルアップはもちろんのこと、地域連携支援にも積極的に貢献していきたいと思ひます。

# 第10回 慈愛会リハビリテーション合同活動発表会

今村総合病院 作業療法士 黒肱 知弘



2021年11月27日(土)に鹿児島県市町村自治会館をメイン会場として開催しました。今年度はコロナ禍の開催で、メイン会場とWEBとのハイブリッド開催にて行いました。参加者は今村総合病院・いづろ今村病院・谷山病院・高麗町クリニック・愛と結の街・奄美病院・徳之島病院の各スタッフ、合わせて110名(内8名はZOOMでの参加)でした。

今村英仁理事長の挨拶から始まり、村山芳博リハビリテーション部顧問の基調講演「慈愛会リハビリテーションの軌跡と今後の展望」と、13演題の研究発表があり、活発な質疑応答が行われました。

今回で10年目を迎え、発表内容も年々充実したものになってきております。

最後に堂園浩一朗リハビリテーション部 部長の総括をいただき、第10回記念大会は成功裏に終了致しました。

また、特別企画として村山顧問へこれまでの多大な功績と長年の功勞に対し感謝の意を含め、大きな花束のサプライズプレゼントも用意されました。慈愛会リハビリ部開設からの思い出話も披露され、会場は笑顔に溢れました。

今後もこのような研究発表を継続し、慈愛会リハビリスタッフのスキルアップ、地域への貢献に繋げていきたいと思っております。

## 企業型DC 運用見直しのススメ

慈愛会職員の皆様へ

### 退職金を増やす方法、ご存知ですか？

企業型確定拠出年金の運用次第で  
退職金の受取金額は変わります！

※企業型確定拠出年金（企業型DC）とは？  
慈愛会が職員の間一人ひとりに毎月一定額を拠出（＝積み立て）し、その拠出を職員ご自身が運用して、原則60歳以降に運用したお金を受け取る制度のことです。401Kとも呼びます。対象は正職員となります。

掛金って？  
将来退職金として支払う一部を、もともと職員各人に毎月支払う形として個人専用口座に拠出するもの。（慈愛会法人が負担）

慈愛会の掛金は職能資格区分により以下の通りです。

職能資格区分	月掛金	職能資格区分	月掛金	職能資格区分	月掛金	職能資格区分	月掛金
実務1～2級	1,000円	階層1級	4,000円	監督1級	12,000円	管理1級	20,000円
実務3級	2,000円	階層2級	5,000円	監督2級	18,000円	管理2級	22,000円
実務4級	3,000円	この金額が毎月積み立てられます。この拠出金を元手に、ご自身が選んだ運用商品（金融商品）が自動的に購入されます。					

運用商品は16種類。定期預金型：3 傷害保険型：1 投資信託型：12 ※それぞれに利回りが異なります。  
運用実績に応じて積立金は増減＝自分の運用次第で退職金合計額が変わる（\*）！

現在、定期預金型（元本保証型商品）で運用中の方が慈愛会にたくさんいます。投資信託型で運用している人と比べると、その差は数十万円（人によっては百万円以上）となっています。

自分選んだ運用商品？さっぱり見えない  
大丈夫！一度選択した商品や投資割合は随時変更可能です。スマートフォンやPCで運用実績確認、運用商品・投資割合の変更ができます！

増やせるって思われても仕組みがよく分からない

運用商品の詳しい説明、見直し・問い合わせ方法について  
慈愛会職員専用の説明動画をご用意しました→

動画は7つのテーマで構成（見たいテーマのみ視聴できます）

1. 企業型DCはなぜ必要？
2. 企業型DCの仕組み
3. 運用商品とみやす運用の重要性
4. みやす運用（投資信託）について
5. 運用商品の選び方
6. 運用商品の見直し
7. ユーザーID・暗証番号の再発行、お問い合わせ先

動画を見て、ご自身の退職金運用について今一度考えてみませんか？

電話でのお問い合わせは鹿児島銀行地域支援部（DC担当） まで（平日9～17時）

鹿児島銀行からのお知らせとして、12月に、企業型確定拠出年金（企業型DC）対象者全員へ、チラシ（左）が配布されました。

慈愛会職員専用の説明動画は、もうご覧になりましたか？

- ☆増やす運用商品＝投資信託に関すること
- ☆投信選びのコツ
- 等、動画で詳しく解説中💡

この機会にぜひ、動画を参照し、企業型DCの運用見直しをご検討ください。

スマートフォンから→チラシ記載のQRコードで。  
パソコンの場合→下記URLへ。

<https://www.> (省略)

運用商品の变更、投資割合の变更等、運用見直しはかぎんウェブサイトから、運用状況記録管理会社のNRKウェブサイトにログインすればOK。

手続きには、各位のユーザーIDと暗証番号（入職後、企業型DC申し込みの後に、自宅に郵送された青色のはがきに記載）が必要です。

はがきが見当たらない ユーザーID・暗証番号が分からない **電話で再発行手続きを依頼すればOK!**

099- (省略) 鹿児島銀行地域支援部(DC担当)：平日9時～17時

その他、メールでの問い合わせは、本文に所属、氏名、質問事項を記入し下記アドレスへ（原則メールでの返答となります）。  
鹿児島銀行地域支援部DC担当アドレス (省略)

表彰おめでとうございます

第7回日本HTLV-1学会学術集会 JSPFAD登録貢献者表彰

今村総合病院血液内科 宇都宮 與 名誉院長  
臨床研究センター長・HTLV-1研究センター長

11月5日から7日にかけて熊本市で開催された第7回日本HTLV-1学会学術集会で、JSPFADコホート研究における4500検体登録達成の貢献者表彰を受賞しました。

JSPFADとは、ATL、HTLV-1関連脊髄症、HTLV-1関連ブドウ膜炎などの原因ウイルスであるHTLV-1の感染者に対して「ATL発症高危険群の同定と発症予防」を目的とした前向き観察研究です。当院は、本観察研究に2003年から参加し、血液内科だけでなく、皮膚科、脳神経内科、眼科などの診療科や多くのメディカルスタッフの協力のもと4500検体という日本で最も多くの検体登録に貢献し、日本のHTLV-1研究に貢献したことで表彰されました。



宇都宮名誉院長



第3回懸賞論文「日本医療経営実践賞」優秀賞 受賞

「有事下でもゆるぎない病院経営を目指して  
—COVID-19禍における「病院経営のBCP」への一考察—

本稿は、有島統括事務長と共に新型コロナウイルス感染症(以下COVID-19) 禍において当院で実施した経営対策とその効果を考察し、有事下でも持続できる「病院経営のBCP」という観点から、今後の経営のあり方を検討したものです。研究方法としては、患者数の変化や職員アンケートの結果を分析しました。

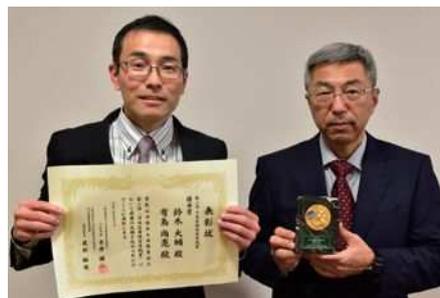
COVID-19の感染拡大により、医療現場はこれまでにない変化を求められました。医療経営においても同様であり、経営に難渋した病院も多かったように感じます。当院も同様であり、この危機的状況とそれを改善しようとしたプロセスを客観的に記録へ残し、多くの方々へお伝えすることができればと考え、論文にまとめました。

現場における実際の取り組みを、このような形で評価いただき、大変喜ばしく思っております。これからも「有事に遭遇してもびくともしない組織」を目指し、日々努めていきたいと思っております。

急性期病院統括事務長 兼 今村総合病院事務長  
有島 尚亮

今村総合病院 総務課長

鈴木 大輔(文責)



写真左から鈴木課長、有島統括事務長

地域医療を支える  
看護師特定行為シンポジウム

今村総合病院看護師特定行為研修センターは2021年12月4日(土)、研修制度推進の一環としてシンポジウムを主催しました。主会場のかごしまオハナビル3階大会議室では30人余が参加。オンラインで鹿児島県内8医療機関とつなぎ、個人でのオンライン参加も約30人に上りました。

第1部の講演では、九州厚生局健康福祉部医事課の向井葉子看護指導官が、高齢化の進展に伴う医療提供体制の改革の方向性を示し、今後一層の期待がかかる看護師特定行為研修への行政としての支援策などを取り上げました。続いて、鹿児島大学病院看護師特定行為研修センターの福元幸志主任が、研修修了者によるフォローアップ会議やネットワーク作りが養成的向上に奏功している例などを紹介されました。

第2部のパネルディスカッションでは、鹿児島大学病院の平郡和弥特定看護師が外科領域での実践事例、国分中央病院の河本智美看護部長(特定看護師)が病院だけでなく特別養護老人ホームでの活動状況を交え慢性期医療を担う施設における特定看護師の役割や展望について、鹿児島医療センターICUの田代祐子特定看護師(集中ケア認定看護師)が急性期病院でのチーム医療における役割や実践事例について、それぞれ詳しく報告されました。

初めての企画でしたが、有意義な意見交換もでき盛り多いシンポジウムとなりました。特定行為研修制度や特定看護師について一層の周知ができるように活動していきたいと思っております。



今村総合病院看護師特定行為研修センター 研修責任者 上山 テルヨ

## 2年ぶりの奄美病院敬老会 -「ミキ」でカンパ〜イ!!-

コロナ禍の中、多くの行事が中断、面会も制限され窮屈な思いで入院生活を送っている患者様へ、介護福祉士が企画し2年ぶりに敬老会が開催されました。OT活動の後、総勢43名が参加しました。子供から高齢者に人気のミキ(奄美大島で古くから伝わる飲み物。お粥とサツマイモを乳酸発酵させて作り栄養価が高く消化の良いもの)で乾杯。色紙にメッセージを添えプレゼントしました。チジンが鳴ると六調で盛り上がり、腕の上がらない方も「あたたか…」と言いながら踊っていました。「笑顔」と「涙」と「ありがとう」が心に染み、私達の原動力となっています。研修医の穂原医師も参加され、翌日からミキの虜になったようです。

奄美病院 4階西病棟看護師長 富地 幸代



六調で盛り上がった敬老会



プレゼントの色紙と、チジン(太鼓)、乾杯のミキ

## 愛と結の街グループ敬老会



職員による踊りの披露

今年はコロナの影響もあり、日程(9/23、9/24、10/3)と時間をずらして感染対策を実施しながら事業所ごとに行いました。

老健とグループホームでは今年、100歳以上1名、白寿2名、米寿3名、喜寿1名の方が表彰を受けられました。

表彰者のご家族のみ参加をいただき、久々の再会に涙を流される様子も見られました。

職員も踊りやウクレレ、三味線、歌などでお

祝いの日を盛り上げ、ご利用者のみなさんも楽しんでおられました。

デイサービスセンターあしたの風では喜寿3名、白寿1名の方々へ表彰式を開催しました。職員の催し物ではフラダンスを披露しました。途中からご利用者の方々もフラダンスの衣装に着替え、最初こそ恥ずかしい様子でしたが一緒に踊るうちに笑顔があふれ賑やかな踊りの輪となりました。

敬老のお祝いに抹茶と和菓子をお出しすると「食べるのがもったいない。うちんと持って帰って食べさせたい」「久しぶりの抹茶は美味しい」と大変喜んでいただきました。

コロナの影響下でしたが無事に敬老会が開催でき、皆さんへお祝いができ嬉しく思います。これからも感染症対策に留意しながら皆さんが楽しんで頂けるような活動を行っていきたいと思います。

愛と結の街 介護福祉士長 川崎 友義



ご長寿の皆さまへの表彰式



デイサービスご利用者も一緒にフラダンス

## 秋祭りカラオケ大会♪

11月5日、徳之島病院では秋祭りカラオケ大会を開催しました。9月に予定していましたが、島内で新型コロナウイルス感染者が確認され警戒レベルが引き上げられたため、延期となっていました。今回規模を縮小し、カラオケ大会のみ行うこととなりました。6名の患者様が日頃の練習の成果を発揮し、元気で素晴らしい歌声を聞かせて下さいました。栄養科からは温かいおしるこを振る舞い、楽しい時間を過ごすことができました。

長らくコロナ禍の中、入院患者様や私たち職員を元気づけてくれる行事となりました。一日も早くコロナが収束し、不安から解放される日が来るよう願っております。



素晴らしい歌声を披露♪



最後に記念撮影

徳之島病院 薬剤科 松本 亜矢美



## 【いづろ今村病院の取り組み】

いづろ今村病院薬剤科の取り組みを報告します。薬剤科では毎週月曜日、ミーティング後に交代で「慈愛会フィロソフィ」の一項目を読み、自分自身の行動や判断、物事に対する考え方について振り返る時間を設けています。フィロソフィの内容は難しいことが書かれている訳ではありませんが、一つずつ振り返ってみると、普段なかなか実行できていないことも多いものです。先日は「感謝の気持ちを持つ」という項目を振り返りました。私たちが今日あること、存分に働けることは当たり前のことではなく、患者様や利用者様はもちろん、職場の仲間、家族など周囲の人々のおかげであることに感謝するという内容でした。普段から周囲への感謝の気持ちを持ち、お互いを尊重し信頼できる職場環境を作っていくことが大切だと改めて考えさせられました。週1回の短時間ですが、「慈愛会フィロソフィ」が私たち自身に浸透し、慈愛会の先輩方が作り上げてきた慈愛の精神を後輩にも引き継いでいけるよう、これからも取り組んでいきたいと思えます。

いづろ今村病院 薬剤科 東屋敷 史織



## 素直な心に至るために自分と向き合うこと



新型コロナウイルスの影響で生活が一変しました。おうち時間が増え、自分自身を見つめ直した方もいるのではないのでしょうか。

慈愛会フィロソフィの一つに「素直な心を持つ」があります。「素直な心とは、自分自身の至らなさを認め、そこから努力するという謙虚な姿勢」で「自分にとって耳の痛い言葉こそ、本当は自分を伸ばしてくれるものであると受け止める謙虚な姿勢が必要」と締めくくられています。

素直な心に至るには自分を冷静に客観視する必要があります。その時、未熟な面、できている面、また自分でも驚くような感情や思考を抱えていることに気づき、否定したくなることもあります。また他者の意見を素直に受け入れられず、責任転嫁をしている自分に気づくこともあります。それが現在の自分の状態だと認識し、認めることが、素直な心に繋がっていくように感じます。

自分自身、認めがたい面が多々ありますが、時に停滞や後退しつつも、慈愛会フィロソフィを一つの指針とし、一步一步、自分で納得しながら謙虚さを身につけ、素直な心近づいていきたいと思えます。

いづろ今村病院 地域連携室 公認心理師・臨床心理士 片山 秀実

### 冊子抜粋 第23項「素直な心を持つ」

素直な心とは、自分自身の至らなさを認め、そこから努力するという謙虚な姿勢のことです。

とかく能力のある人や気性の激しい人、私の強い人は、往々にして人の意見を聞かず、たとえ聞いても反発するものです。しかし、本当に伸びる人は、素直な心を持って人の意見をよく聞き、常に反省し、自分自身を見つめることのできる人です。そうした素直な心でいると、その人の周囲にはやはり同じような心根を持った人が集まってきて、物事が上手く運んでいくものです。

自分にとって耳の痛い言葉こそ、本当は自分を伸ばしてくれるものであると受け止める謙虚な姿勢が必要です。

## 在宅医療 リレーエッセー ⑥

### 「利用者が幸せを感じられる支援を意識して」

訪問看護ステーションイルカ 看護師 西田 和仁

喜界島への訪問看護を始めて1年が過ぎました。ゼロからのスタートで、いろいろ大変な点も多かったですが、少しずつ顔を覚えてもらい、他の支援者との連携も取れるようになってきました。

今まで、喜界島の訪問看護は、役場の保健師がその役割を担っており、まず保健師との連携、協力を得ることから着手しました。その他に社会福祉協議会や福祉施設のケアマネジャーや相談支援員、ヘルパーなどの人脈づくりを始め、次第に精神科訪問看護の存在を認識されるようになってきたと実感します。

そんな中で、ちょっとした成果があったケースを紹介します。50代後半の男性利用者M氏は高齢の母と2人暮らし。外来診療に行くのを拒み、診察は母が代理受診。薬の服用も嫌がり、薬を飲めない状態で精神症状も改善されず、夜間の不眠も訴えていました。無口で多くを語らず、質問に答えるくらいの方でした。

私は訪問を重ねる中で、薬の必要性や有害でないことを誠心誠意説明しました。4回目の訪問の前に母親に電話すると、「西田さん！薬を飲むようになりましたよ」と嬉しそうなお声。さらに、自ら診療所で外来受診を受けるようになりました。以前のM氏からすると画期的な変化です。M氏の意識を変えたという点は、訪問看護の成果と言えると思います。

喜界島の訪問看護利用者はまだ少ないですが、私の訪問を待ちにしている利用者もおり、何とか期待に応えたいと思うと同時に、すべての利用者が、ちょっとした幸せを感じることができるよう支援を意識して取り組んでいきたいと思っています。



### 生き物飼育の達人

徳之島病院 デイケア室  
作業療法士 田中 智大 さん  
Tomohiro Tanaka

今年5月、引っ越しを機に興味があった生き物飼育を始めました。今は島で採集したメジナ、ヤモリ、ハエトリグモ、サソリモドキ、ムカデと、通販で迎えたサソリ、カブトガニ、ベタを2匹、タランチュラを3匹飼育しています。

そこで、念願の「チャグロサソリ」(全長約10cmメスの生体)を迎え入れ「チャーミー」と名付けました。おとなしい性格のチャーミーは普段シェルターに引きこもっており、時々ケージに張り付いて腹部を見せてくれます。世話は、水場への給水と湿度の管理が主で、1週間に1度餌やりを行います。サソリはとても省エネな生き物で、1カ月程食べなくても元気に生きていけますが、水はとても重要で、水切れや湿度が下がると途端に弱ってしまうこともあるようです。

飼育の醍醐味は、何といっても捕食シーンが見られることです。ピンセットから直接受け取ってくれる姿、威嚇からの捕獲など、様々なシーンを観察できます。ちなみにサソリの口には小さなハサミがついており、獲物をちぎって食べています。ほとんど餌を食べない生き物なので、餌を食べてもらえるとお互いが通じ合えたような気がして嬉しい気持ちになります。



チャグロサソリの「チャーミー」



サソリモドキ



タランチュラ



ベタ



飼育の様子

そして、この10月になんと、チャーミーの子どもが産まれました。以前サソリモドキの子育てをした時は全滅してしまいましたが、今回は十分に子育て出来る環境が整っているため、子サソリ達を大人へと育て上げることが今の目標です。

(省略)

## 年末年始の交通事故防止 交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を

年末年始は、物流や人の活動が活発になることから、早朝や夕暮れ時、夜間の交通事故が多発する傾向にあります。また、この時期は、忘年会や新年会など、飲酒の機会も増えることから、飲酒運転に起因する交通事故や交通違反も多数発生しています。

このため、令和3年12月10日から令和4年1月10日までの間、県民総ぐるみによる「年末年始の交通事故防止運動」が実施されます。

悲惨な交通事故を防止するためには、職員の皆様を始めとする県民一人一人が交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを実践することが肝要です。

慈愛会においては、昨年1月と本年10月、いずれもバイクを運転して出勤中の職員が、交通事故によって尊い命を奪われたほか、依然として重大な交通事故に直結するおそれのある交通違反が後を絶たない状況にあります。

是非この機会に、家族や友人、職場の同僚の方々と交通安全について考え、「交通事故を起こさない!」「交通事故に遭わない!」という交通安全意識を高めましょう。

法人事業本部 危機管理室長 濱田 英行

### 令和3年度「年末年始の交通事故防止運動」

#### 【運動期間】

令和3年12月10日(金)から令和4年1月10日(月)まで

#### 【運動のスローガン】

**「年末年始 マナーアップで 事故防止」**

#### 【運動の重点】

- 1 早朝、夕暮れ時、夜間の交通事故防止**  
～「3(サン)ライト運動」「プラス1(ワン)運動」の展開～  
～横断歩道における歩行者保護意識の醸成～
- 2 全ての座席のシートベルトとチャイルドシート、自転車利用時のヘルメット着用の徹底**  
～全席ベルト着用!!「します・させます運動」の展開～  
～かごしま自転車条例の理解促進～
- 3 飲酒運転等の危険運転の防止**  
～「飲酒運転8(やつ)せん運動」の展開～  
～安全に停止できる速度と車間距離の保持～



飲酒運転をしない  
させない



ながら運転は危険!



全席ベルト着用!



歩行者保護意識を  
高めよう!

### 編集後記

編集後記の順番が回ってきたので話題を探していたところ、ありがたいことに慈愛会学会のポスターで優秀賞を頂きました。学会の顔となるポスターに選ばれ、本当に光栄です。病院内にも掲示され、様々な方におめでとうと声をかけていただきました。

また、最近では当院のWLB推進委員会に依頼され、職員向けにレジン講座を行いました。楽しそうに作業される参加者を見て、私自身も楽しかったです。

幼い頃からイラストやハンドメイドが趣味で、私にとって一番のストレス解消なのですが、このように職場でも活かせることができたのは嬉しかったです。

今後も趣味と仕事、どちらにおいても、新たなスキルを身に付けたいと思っています。

谷山病院 総務課 加納 彩貴

## Professional

慈愛会報[プロフェッショナル]  
2021年12月 Vol.27  
発行：公益財団法人慈愛会  
編集：Professional編集委員会  
委員会事務局：慈愛会 企画部 経営企画室  
duties-support-room@jiaikai.jp  
TEL 099-256-0311 内線2042

公益財団法人 慈愛会  
<https://www.jiaikai.or.jp/>